

経営比較分析表（令和2年度決算）

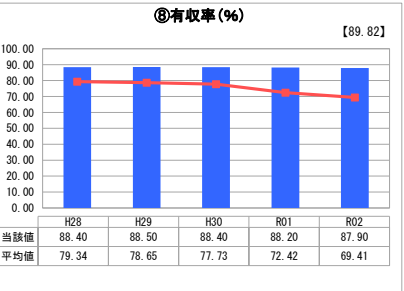
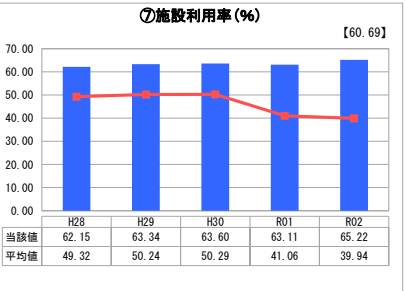
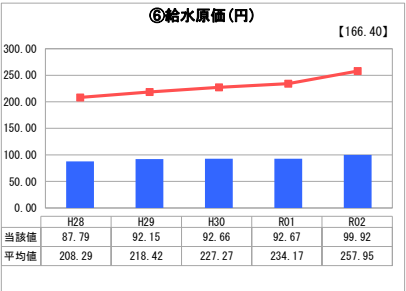
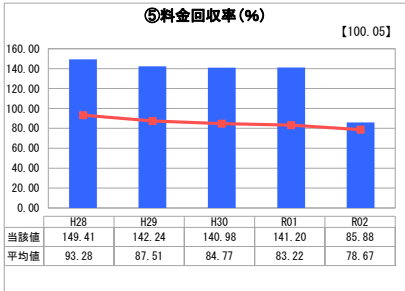
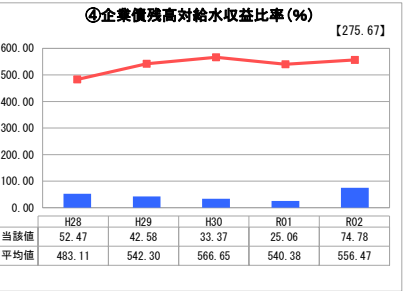
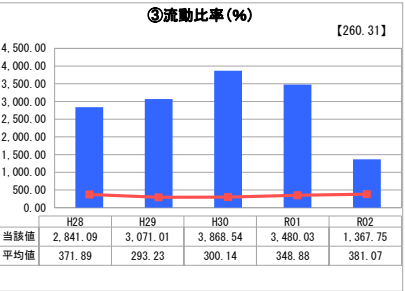
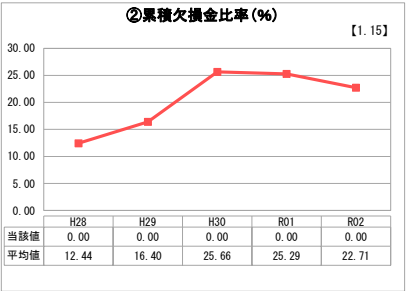
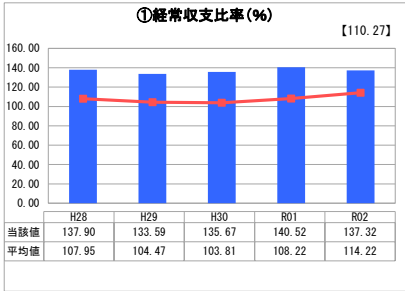
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	92.00	34.98	2,612	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,867	144.21	96.16
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,847	4.02	1,205.72

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、近年、住宅やアパートの建設が進んだことにより、給水収益が増加したことによって上昇しているが、令和2年度は、経営戦略策定に伴う、委託費が増加したことで、前年度から減少する要因となった。

流動比率については、令和2年度で未払金の増加により、前年度から大幅な減少となったが、比率が100%を上回っているため健全性が保たれている。

企業債償還額が減少傾向にあったが、令和2年度で、起債事業が増加したことが、上昇の要因となった。類似団体より低い理由として、投資規模が適正であることがあげられる。

料金回収率は、平成28年度から高い数値で推移していたが、令和2年度で2期分（4か月）の水道料金を免除したことにより、一時的な料金収入の減少なので、健全性に問題がないと判断できる。

給水原価については、平成28年度から上昇傾向にあるが、令和2年度では、経営戦略策定に伴う、委託費が増加したことによって上昇する要因となった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。

施設利用率については、企業への安定した給水により横ばいで推移している。

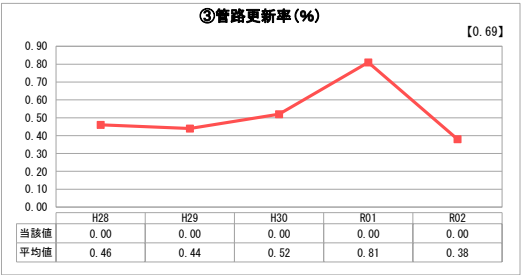
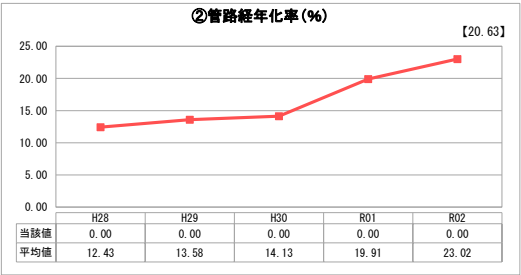
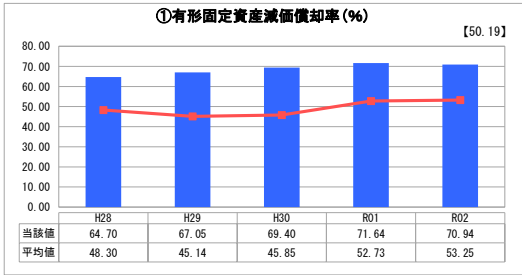
有収率については、近年、ほぼ横ばいで推移している。類似団体より高い水準で推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体と比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。

管路経年劣化及び管路更新率については、低い水準になっているが、保有資産の計画適的な更新を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

有形固定資産近年、横ばいで推移しており、類似団体と比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。